

・平成25(2013)年11月7日(木)～11月9日(土)

・行程

11月7日 盛岡駅集合 市内見学 紫波町 工藤家訪問 花巻温泉泊

8日 北上みちのく民俗村 遠野伝承園等見学 あえりあ遠野泊
昔ばなしの夕べ

9日 遠野ふるさと村 千葉家(重文) 盛岡駅解散

・参加 48名(うち民家園2名)

・研修の概要

(11月7日)

盛岡駅に集合後、明治時代に金融の中心地として栄えた紺屋町周辺の歴史的建造物「もりおか啄木・賢治青春館(建物は国重要文化財)」「岩手銀行中ノ橋支店(辰野金吾設計)」などを見学。

その後、バスで民家園に移築された旧工藤家の所在地だった紫波町に向かう。現地では工藤家をはじめ近隣の方々から大歓迎を受けた。炉端の会からは御礼として民家園の旧工藤家の写真パネルを贈呈し喜んでいただいた。

また、明治41(1908)年生まれでご健在の工藤ソノさまはじめ工藤家の方々から南部の曲り屋や座敷わらしなどについての興味深いお話を伺い、民家園の旧工藤家について理解を深めることが出来た。

名産のお料理などをいただきながら歓談し、工藤家をはじめ皆さまが我々炉端の会の活動を高く評価していただいていることを知り今後の活動への意欲が高まった次第である。

(11月8日)

宿を出発して南下し、北上川に沿った「みちのく民俗村、北上市立博物館」を訪問しボランティアの方の案内で見学した。みちのく民俗村は10軒の茅葺民家などが復元されておりこの地の民俗・文化について知ることができた。

次に遠野市に向かい「伝承園」で遠野地方のかつての生活様式や伝承行事などの知見を高め、引き続いて民俗学者柳田国男の遠野物語の舞台ともなった「カッパ淵」「デンデラ野・ダンノハナ」「山口の水車」などを見学した。

夜には宿で遠野の昔ばなしを拝聴することができ、これら一連の研修によって遠野物語に描かれた「日本人が自然・神様・社会のありようなどについてなにを考えて生きていたのか」を知ることができ、また、これによって今を考える大変良い機会となった。



遠野 伝承園にて

(11月9日)

まず、市内の「遠野ふるさと村」を見学した。村には江戸時代に建てられた「肝いりの家」をはじめ広大な曲り家が集められており昔ながらの山里の文化や生活を知ることができた。

盛岡への帰途、国の重要文化財である「千葉家」を見学した。小高い丘の中腹の小城のように構えられた大型曲り家を中心に土蔵・納屋・社などがある豪農の屋敷構えである。

一方で、間取りは合理的で家は住まい手の生活や地域環境を背景に工夫が重ねられ進化するものであることを伝えていた。

盛岡駅で解散、3日間の大変有意義な園外研修を無事終了した。

(編集委員 13期 金曜 布野)